

# ～ジョン万次郎の生き方に学ぶ～

酒井正憲

## 1. 漂流

### 1) 万次郎の生い立ち

万次郎は1827年1月23日に高知県土佐清水市中の浜で、貧しい漁師の次男として生まれた。9歳の時に父親が5人の子供を残し病死した。兄は身体が弱かったので、万次郎が家計を助けなければならなかった。

万次郎が14歳の時、高知から西へ20kmほど離れた宇佐浦（土佐市）の漁船で働き始めた。



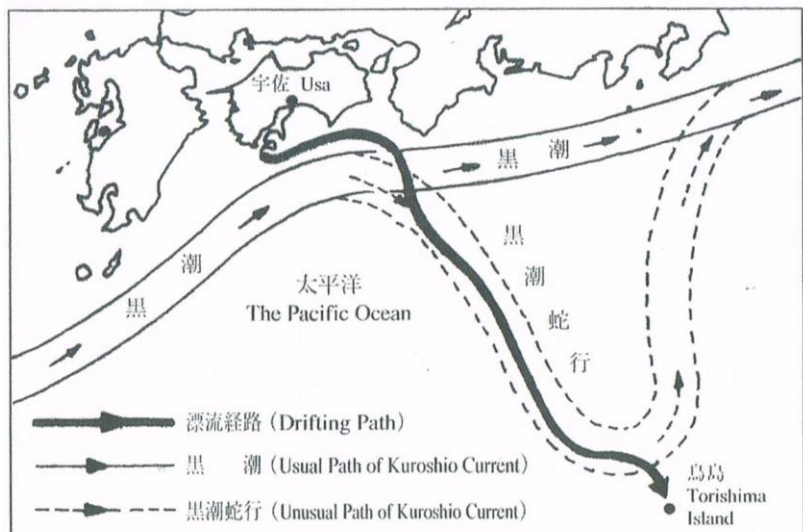
土佐清水市中の浜の生家



### 2) 遭難・黒潮の大蛇行

1841年1月27日、万次郎達5人の漁師が宇佐浦近海で漁をしていた時、突然の嵐に遭遇した。8mほどの小舟は自由が利かなくなり、どこに流されるか、と不安がつのり、みぞれが降る中を食料も水もなく6日間、生死の狭間で漂流した。

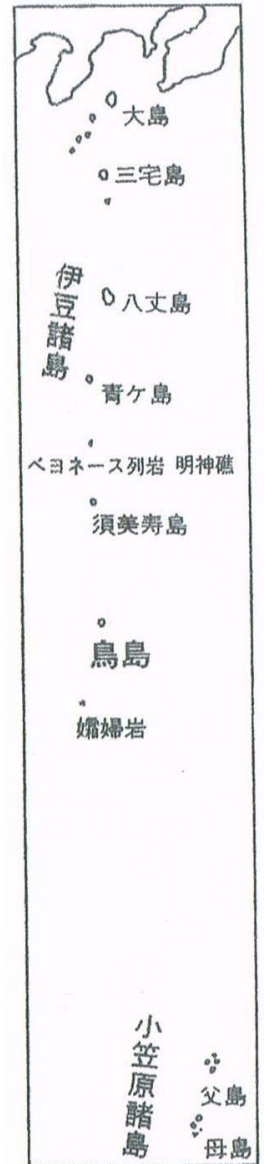
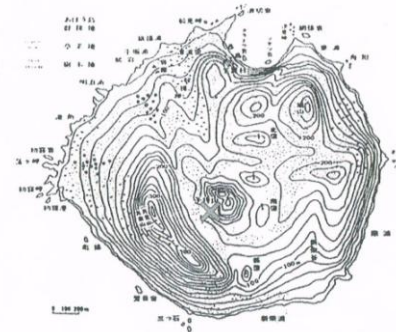
通常、漂流は日本列島に沿って流れていますが、時として蛇行し大きく南にカーブする場合があります。万次郎達は、幸いにもこの黒潮の大蛇行に乗り助かったのです。大蛇行が無ければ、真冬の北方に流されて助からなかった。(運の強さ)



### 3) 鳥島

鳥島は四国の足摺岬から南東へ約750km、東京と小笠原諸島の間位置する無人島だ。島は断崖に囲まれており、舟は岩に当たって砕け、大切な釣り道具や火打ち石もこの時紛失している。

5人はやっとの思いで上陸し、全員生命だけは奇跡的に無事だった。その後、万次郎は常に「決して諦めてはいけない」と言っているが、いくつもの難関を乗り越える大きな心の支えとなったのは間違いないと思う。(強い精神力の持ち主)

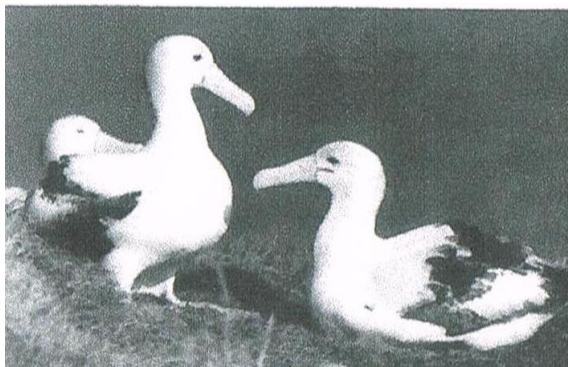


鳥島海域図

### 4) サバイバル生活

鳥島は明治以降2回の噴火があり、現在は形が変わっている。ほぼ円形をしており、周囲8.5kmの火山島である。大きな樹木がなく、グミ、イタドリといった草木しかなかった。

島には、アホウドリと呼ばれる海鳥が沢山生息した。羽を伸ばすと2mを



越え、体重は5~7kgの大きい鳥だ。このアホウドリがヒナに餌をやる為にとる魚を横取りしたり、この鳥を生で食べて飢えをしのいでいたりしていた。暖かくなるとアホウドリも北にむけて次々に巣立っていくので、食料に困る日が続いた。

### 5) 発見

サバイバル生活143日目、何と大海原の南東に大きな船が現れ、鳥島の方向にやって来たのだ。最初は万次郎達に気付かず去って行ってしまった。しかし万次郎は「もしかしたら、船は山の陰に隠れて見えなくなっているだけかもしれない」と思い、山道をかけ下ると、そこに大きな船が停泊しており、船から2隻のボートが島に近づいて、全員無事に救助された。

(粘り強さと気転を効かす能力)



## 6) 救出

万次郎たちを救出した船は、アメリカの捕鯨船でマサチューセッツ州ニューヘッドフォードを母港とするジョン・ハウランド号だった。船長の名前は、ウイリアム・ホイットフィールドという。太平洋での船長との出会いの瞬間から、万次郎と船長、更にはホイットフィールド家と中濱家の運命的な深い絆が出来ていく。この時、万次郎14歳、船長37歳だった。



ウイリアム・ホイットフィールド船長

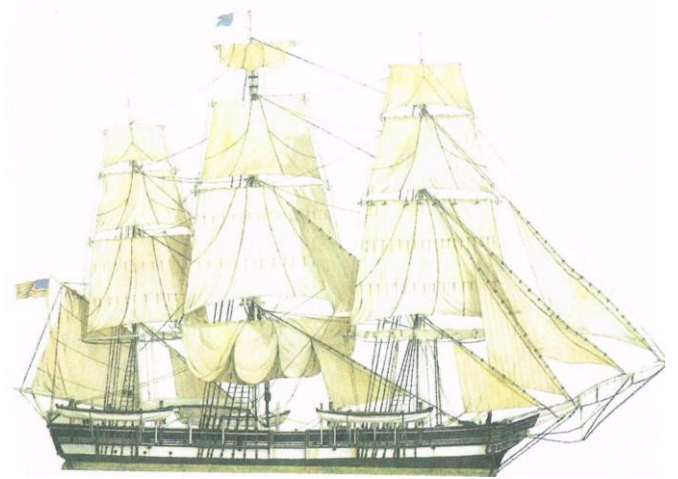
## 2. 外国

### 1) ジョン・ハウランド号の航海

1841年6月27日の航海日誌には、「日曜日、島が見える。この島にウミガメがいるかどうか?を探す為に13時に2隻のボートを降ろす。島には遭難して疲れ果てた5名の者がいるのを発見し、本船に収容した。飢えを訴えているほか、彼らからは何事も理解することは出来なかった」とある。

### 2) 多くのものが一つになって

ジョン・ハウランド号の後部には「E PLURIBUS UNUM」(エ・プルリブス・ウヌム)と書いてあるのを万次郎は見ている。ラテン語で「多くのものが一つになって」という意味で合衆国を表している。アメリカで現在も使用されている、1セント、5セント、25セントのコインにも、この言葉が小さく刻印されている。万次郎は150年以上も前に自分の目で確認していた。



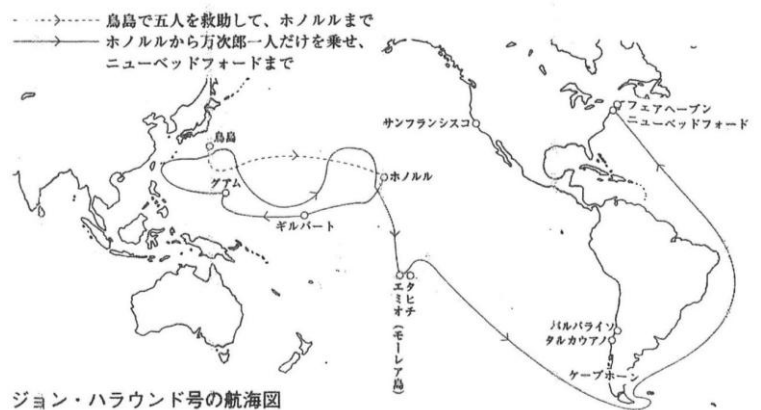
ジョン・ハウランド号

### 3) ニックネーム

万次郎の「ジョン・マン」というニックネームは、この船の乗務員が「ジョン・ハウランド号」と「万次郎」を合わせてつけたもので、万次郎自身もサインで「Jhon Mung」としてアメリカで使っている。

### 4) ホノルル

5人の日本人を救済したジョン・ハウランド号は、捕鯨を続けながらハワイのホノルルに寄港した。ホノルルは当時、環太平洋地域の情報の中心であり、月に何十隻もの捕鯨船が出入りし、水や食料を補給する基地だった。そのため中国行きの船に乗れば、日本に帰る

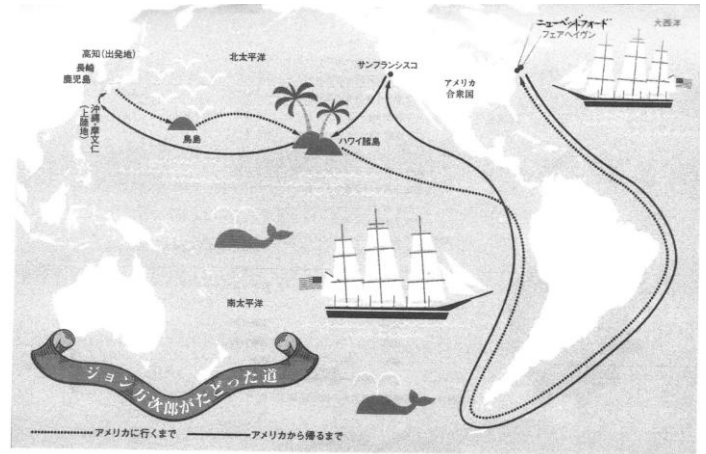


ジョン・ハウランド号の航海図

可能性があるだろうと判断した船長は5人の日本人をジョン・ハウランド号から降ろしたのだ。

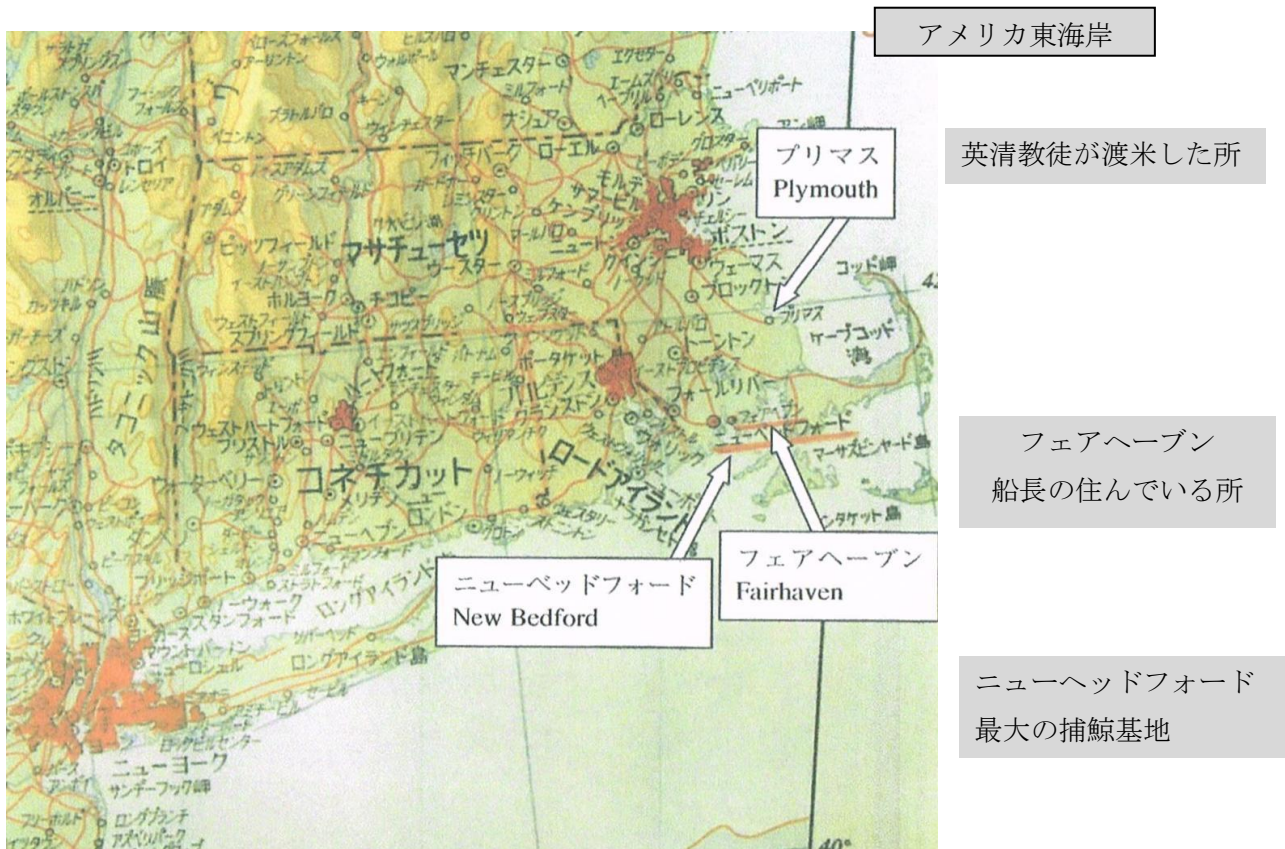
### 5) 人生の大きな分岐点

万次郎の機敏な行動を見ていた船長は万次郎1人をアメリカに連れて行き、教育しようとして申し出た。すると好奇心旺盛な万次郎は喜んで承諾する。わずか14歳の少年が仲間と別れ、日本語が通じない未知の国にたった1人で行くというのは、相当な勇気がいったと思う。この決断こそが万次郎の人生の大きな分岐点となり、また日本の開国の先駆けとなる大きな一歩だったことは万次郎自身も思いもよらなかったことでした。(好奇心旺盛であった)



### 6) アメリカ捕鯨

ニューベッドフォードには、世界最大の捕鯨博物館「New Bedford Whaling Museum」があり、日米交流150周年記念として2004年4月に約1年に亘って「太平洋の出会い～アメリカ捕鯨、万次郎、そして日本開国～」の特別展が開催され、当時たった1人の日本人である万次郎がアメリカ捕鯨界でどのような生活をしていたかが紹介されていた。



## 7) フェアヘーブン

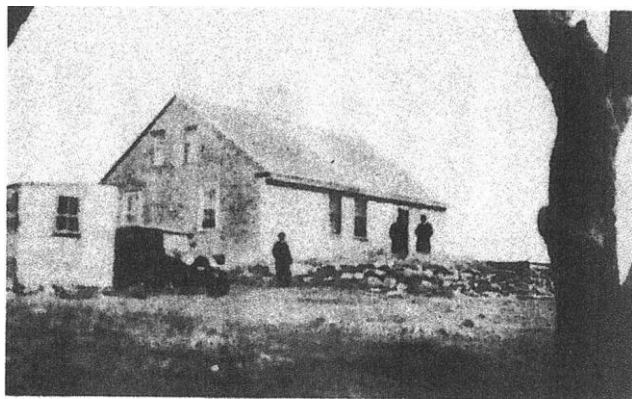
ジョン・ハウランド号は万次郎達を鳥島で救助して2年後に、母港のニューベッドフォード港に無事に帰る。船長の家はこの母港の隣のフェアヘーブンという美しい港町にあった。フェアヘーブンはアメリカ東海岸のマサチューセッツ州の南東部に位置する。1620年メイフラワー号で英国から清教徒が渡ってきたアメリカ英語発祥の地、プリマスの近くである。

## 8) 万次郎がすごした船長の家

1987年には、天皇皇后両陛下が日米友好関係発祥の地としてご訪問になられ、ホイットフィールド家と中濱両家でお迎えした。

## 9) スコンチカットネック農場

船長はフェアヘーブンに帰還後間もなく、郊外に農場を購入し、そこで万次郎も一緒に過す。万次郎がこの家の間取り図を漢字とカタカナで説明している。間取り図には、シチア (stair s), ダイネンルーン (dining room), ベレ (bed), チムネ (chimney) 等が印してあり、1976年に中濱博 (3代目) が訪問した時、図面通りだったとのこと。



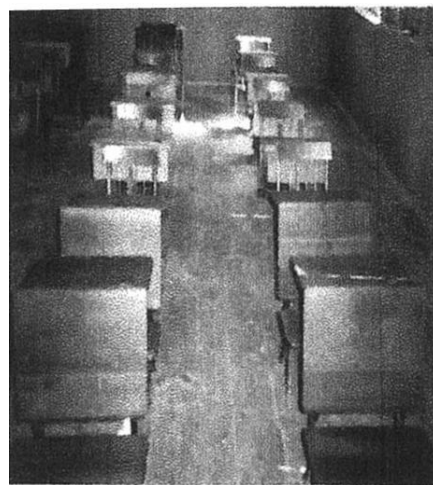
スコンチカットネック農場の家 (1924年撮影)



船長の家 (フェアヘーブン)

## 10) オックスフォード・スクール (小学校)

万次郎が初めて通った小学校がオックスフォードスクールである。165年前の日本人第1号の留学生で、あの有名な「ABCの歌」も、ここで習ったのか? 教室の中は「大草原の小さな家」に出てくる学校のような感じだった。



オックスフォードスクールの内部



### 1 1) ユニテリアン教会

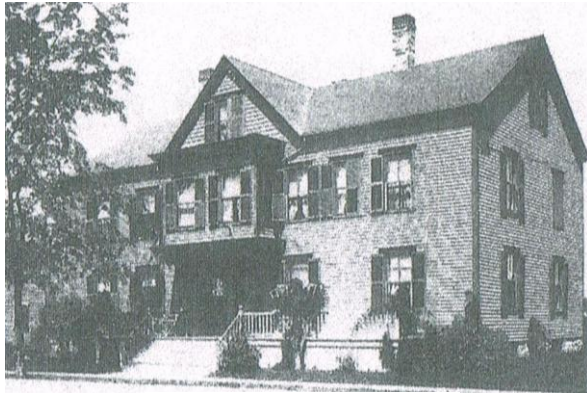
船長はクリスチャンで毎日曜日に教会に通っていたが、万次郎を連れて行った時に人種差別されてしまったので、船長は宗派まで変えて万次郎を受け入れてくれる教会を探してくれたのだった。これがユニテリアン教会だった。(博愛精神を身に付ける)



ユニテリアン協会

### 1 2) バートレッドアカデミー(フェアヘーブンでは最高の学校)

ここで万次郎は、英語教育はもちろん、航海術、高等数学、測



バーネットアカデミー

量術、捕鯨を学んだ、これが後の人生でどれほど役立つことになったか、計り知れない。首席で卒業

している。(向学心、負けん気が強い)

### 1 3) フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領

フェアヘーブンの街には、アメリカ合衆国32代大統領の祖父のデラノ家があり、大統領が少年時代に日本人の万次郎とデラノの人々と教会へ一緒に行ったことがあり、親しくお付き合いしていたと聞いている。もし合衆国に来る機会があれば、是非お立ち寄りくださいとホワイトハウスのルーズベルト大統領から中濱東一郎(2代目)宛に手紙が来ている。



フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領



大統領の祖父のデラノ家

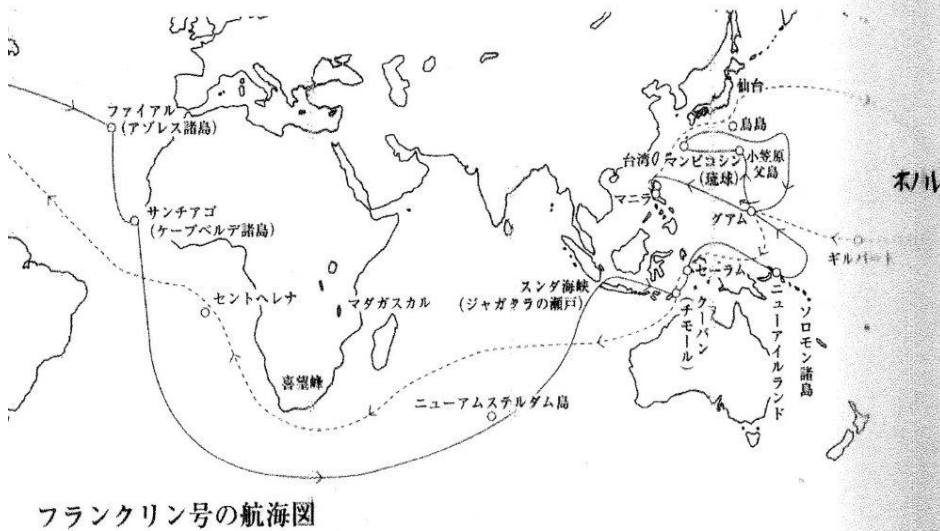
(デラノ家の人々と万次郎は教会に一緒に通う仲よし)

### 1 4) 副船長への昇格

ジョン・ハウランド号で同乗していた、アイラ・デービスがフランクリン号(捕鯨船)の船長で日本方面に行くというので、万次郎を誘った。ホイットフィールド船長は航海中でした

が 船長夫人の勧めで1846年5月にニューベッドフォードを出港した。フランクリン号が太平洋で捕鯨中にデービス船長が精神病になり、マニラで下船させ、新船長の選挙が行われ、航海士のエーキンと同票となり、年長のエーキンが船長となり、万次郎は副船長（一等航海士）になった。3年4ヶ月の航海を終え、ニューベッドフォードに無事帰還した。（万次郎20歳の時）この航海で世界に通じる日本人でたった一人の船乗りになった。

— デービス船長（ニューベッドフォードからマニラ）  
 --- エーキン船長（万次郎副船長）（マニラからニューベッドフォード）



フランクリン号の航海図

1.5) ゴールドラッシュ

万次郎は日本への帰国の資金を稼ぐ為に、ホイットフィールド船長の許可を得て金山に向かう。1849年11月27日にニューベッドフォードを出港し、西海岸のサンフランシスコから川舟で丸1日かけて、金山の入口のサクラメントに着いた。

サクラメントからは荷物を馬に乗せ険しい山々を5日間かけて歩き、金山に入った。70日間働いて600ドル稼いだ。当時の水夫の月給が17ドルなので、かなりの大金だった。（自己資金調達能力）



金山では2丁拳銃を携帯していた（27歳）



### 1 6) 漂流仲間との再会

サンフランシスコから船でハワイに向かい、ホノルルでは漂流仲間と再会し帰国計画を相談する。5人の仲間の内、寅右衛門はハワイに残り日本人最初の移民として暮らし、重助は既に亡っていた。結局、伝蔵と五右衛門と万次郎の3名が帰国することになる。

### 1 7) 鎖国中の日本帰国計画

鎖国中の日本へは外国船は近寄れないので、琉球王国（沖縄）にボートで上陸して危険を回避しようという計画だった。丁度、サラボライト号という船がハワイから上海に行くという話を知り、船長のホイットモア船長と交渉して船上無料働く条件で承諾をとった。捕鯨ボートを購入し「アドベンチャー号」と名つけて、サラボライト号に乗せた。

### 1 8) ハワイの恩人

ハワイ滞在中の万次郎を親身に支援してくれたのが、サミエル・デーモン牧師だった。捕鯨船の船員中には3～5年続く過酷な労働と、船内でのさまざまな人種同士の文化の違いから発狂する人達がいた中、デーモン牧師は人種摩擦の無い世界を求めて布教活動をされていた。また「フレンド」という新聞を刊行し、鯨捕りの為の平等な社会の必要性を訴えた。そんな活動の中で、漂着した多国籍の捕鯨船を迫害する日本の鎖国政策にも反対していた。このことも、万次郎が日本の開国の必要性を感じることに強く影響を与えた一因だった。万次郎は人生の中で、デーモン牧師と4回も会うことに、奇跡的な絆を感じていました。



## 3. 帰国

### 1) 日本への帰国

万次郎達3名は琉球王国の摩文仁海岸から10km離れた所に、1851年2月3日に到着する。サラボライト号は、3名を乗せたアドベンチャー号を降ろすと上海に向かった。日本が鎖国中で、「帰国すると死刑になる！」ことを知りながら、万次郎が帰国を決意した理由は①母に会いたかった、②アメリカ文化を日本に伝えたかった、一番は③自分は日本人である自負が強かったからである。(万次郎24歳の時)

### 2) 琉球での取り調べ(8ヶ月)

琉球では高安という役人の家に滞在し、温かいもてなしを受け、村人の宴にも参加出来たそうだ。

### 3) 薩摩での取り調べ(2ヶ月)

薩摩藩主の島津斉彬は積極的に西洋文化を取り入れ、富国強兵を目指していたので、万次郎から聞く、アメリカ事情や航海術や造船に興味があり、取り調べというより、酒を酌みながらの歓談だった。

薩摩滞在中に越通船と呼ばれる様式の帆船の雛型を造った。(初のアメリカ文化の紹介となる)



#### 4) 長崎での取り調べ（9ヶ月）

万次郎達は、薩摩の警護10余名と共に徒歩で、外国奉行がいる長崎に向った。ここでは「揚がり屋」という未決囚を入れる所に入れられた。当時の長崎奉行は牧志摩守で、白洲で3人は審問を18回も行われた。所持品はすべて没収された（母への土産の金粒、書物、機械類）が、後日返却された。この時の入牢は寛大で入浴、理髪、外出も許可されていた。長崎奉行は顛末を幕府に報告した、幕府は土佐藩主に身元確認を行ない身柄を引き取るように命じた。土佐藩は宇佐浦組頭、中の浜与総次他17名が土佐から身柄引き受けに出向いた。

#### 5) 土佐での取り調べ（2ヶ月）

土佐藩主の山内容堂は21歳で藩主となり、万次郎が帰国した時は25歳であり進歩的な考え方を持ち、吉田東洋を大目付に抜擢し藩政の改革を行おうとしていた時であった。万次郎達の取り調べは吉田正誉にやらせて、その結果を報告させたものが「漂客談奇」である。この漂客談奇は藩の上層部の必読書とされ、他藩の大名まで写本が提供されたほどである。

#### 6) 帰郷

伝蔵と五右衛門2人の兄弟の故郷「宇佐浦」には11年も経過しているのでは家もなく、従弟の家に万次郎も泊めてもらい、翌朝2人と別れた。1人で山を越え、4日目に中の浜に到着した。11年前に漁師になると言っていた別れた母、姉のせき、志ん、兄時蔵、妹梅もみんな健在であった。（万次郎25歳の秋）

### 4. 開国

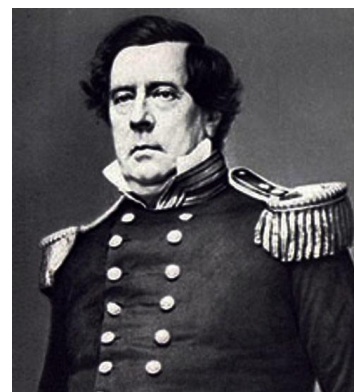
#### 1) 刀を賜り士族になる

母と過ごした3日3晩の後、藩主の命により高知の「教授館」で英語を教えた。この時の辞令で「御小者」として召し抱えられ、武士になった。帯刀は許されたが苗字はなかった。ある日、吉田東洋に世界地図を広げて外国事情を説明していると、傍で熱心に聞く15歳の少年がいた。これが後藤象二郎との初出会いである。他にも坂本竜馬、岩崎弥太郎も万次郎に外国事情を教えている。



#### 2) 黒船来航の目的（1回目）

万次郎が帰国して2年後（武士として高知にいた）、1853年にペリーが軍艦を従えてやってきた。ペリーの日本遠征の目的は、アメリカ捕鯨の最盛期であり、日本近海で操業する捕鯨船が多く、その為日本での水、食料、薪などの補給が必要であったこと、そして難破船の乗務員の保護が必要であった。しかし、鎖国中の日本は物資の補給が出来ず、難破船の乗務員は罪人扱いされて処遇が悪かったの ので、その改善を求める為であった。



ペリー提督

### 3) 黒船来航（大統領の親書）

多数の日本陣営が警護する中、約300名の海軍陸戦隊と軍楽隊を伴い、ペリーは久里浜に到着した。浦賀奉行の戸田伊豆守と井戸石見守が高位役人として対応し、親書を日本の法律を曲げて受領してしまった。ペリーらは来春回答を取りに来ると言い残して江戸を後にして那覇に戻った。

### 4) 江戸赴任

当時、英語とアメリカ事情を知っているのは万次郎しかいなかったもので、江戸に呼び出された。当時開港論を主張していた儒学者の大槻磐溪は、万次郎のことを林大学頭に知らせて、意見書を提出した。これを読んだ林大学頭は万次郎を老中阿部伊勢守正弘に推薦した結果、土佐の江戸藩邸の留守居役広瀬源之進に万次郎を呼び寄せるように命じた。広瀬源之進は幕府が万次郎を登用する考えを見抜き、藩に万次郎を「定（じょう）小者」という低い身分にしていたのでは藩の権威にかかわり、世間体も悪いので昇格するように進言した。

### 5) 幕府直参となる

阿部伊勢守は万次郎を召し出した。そこには林大学頭、勘定奉行川路左衛門尉、伊豆葦山代官江川太郎左衛門といった幕府幹部の側近もいて、海外事情を尋ねられた所、万次郎の応答が明快で要を得ていたので、一同感服させた。砲術家で、外交通の江川太郎左衛門は蒸気船製造の命を受けていたので、万次郎を自分の屋敷内に住ませた。中濱の姓を名乗ったのは1853年10月21日付けの公文書からで、初めて「中濱万次郎」になった。土佐藩と幕府の間で少し揉めたが、老中阿部伊勢守が万次郎をご普請役として幕府の直属（＝直参）にすると言い渡した。

### 6) 黒船の再来

日米交渉と万次郎の立場は微妙であった。というのは、ペリーが万次郎を連れ去りはしないか？万次郎がアメリカに有利な交渉をしないか？など幕府は疑心暗鬼になっていた。実際に、万次郎はペリーにも会っていないし通訳もしていない。しかし、裏方で英文の翻訳したりして大活躍であった。

### 7) 日米和親条約

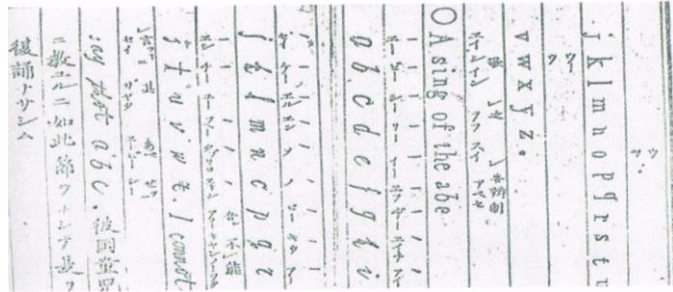
1854年3月31日に神奈川で調印式が行われた。内容は両国の和親、下田、函館の開港、米船の擁護、特に難破船とその乗務員に対する処遇と物資補給、そして領事の駐在など12ヶ条だった。



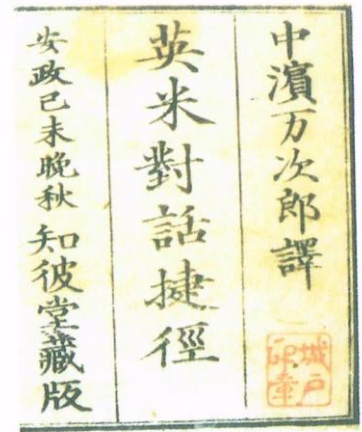


### 5) 「英米対話捷徑」

これは木版刷りポケット版の英会話の本で「英米対話捷徑」と名づけられ、中濱万次郎訳と書いてある。内容は英会話文にカタカナの発音と平仮名の訳文をつけたものである。訳にレ返りが付いているのが特徴である。(1859年出版)



ABC の歌 (英米対話捷徑)



英米対話捷徑  
English Conversation Book

### 6) 英語訳文

アルファベットの紹介から始まり、次に私達にお馴染みの「A、B、Cの歌」が載っている。この歌を日本に最初に伝えたのも万次郎であった。

### 7) 文法書

万次郎が帰国の時に持ち帰ったもので、「初級英文法問題集」(1850年ロンドンで出版)という問答形式の英文法書である。日本で最初の英文法の本である。

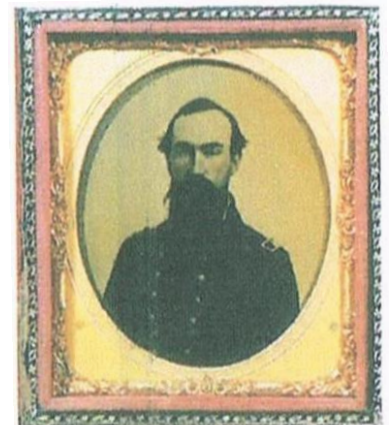
## 6. 咸臨丸

### 1) 日米通商条約の調印

ペリーの日米和親条約締結の結果、日本最初のアメリカ領事としてタウンセント・ハリスが下田に到着した(1856年8月21日)。その2年後7月29日品川沖のポーハタン号艦上で下田奉行井上清直、海防掛目付岩瀬忠震(なり)とハリスの間で日米通商条約の調印が行われた。その批准交換の為ワシントンに派遣される日本の使節はアメリカから差し向けられた軍艦ポーハタン号でいくことに決まり、これに伴い日本側からも別艦が随行することになった。

### 2) ブリック艦長と木村摂津守の出会い

このような状況の時、アメリカの測量船フェニモア・クーパー号が難破し、ブリック艦長と乗務員21名がアメリカに帰る便船を待っていた。随行船の責任者である木村摂津守は長崎の海軍伝習所で訓練しただけの日本人だけでは不安を感じ、航海に熟達したアメリカ乗務員を乗船させたいと幕府に再三掛け合い、了解を得た。

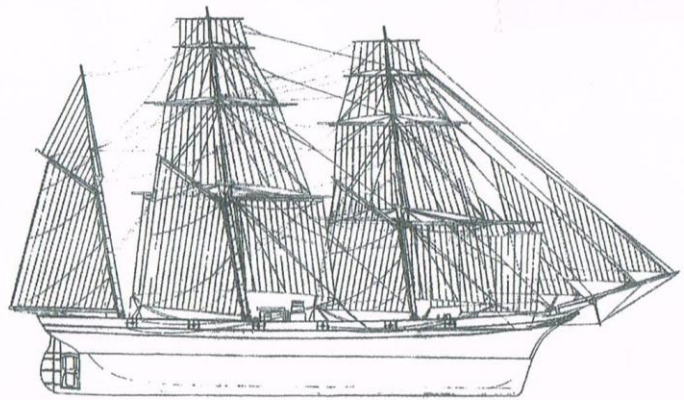


ブリック艦長



### 3) 咸臨丸に決まる

サンフランシスコまで行く随行艦は朝陽丸、観光丸など検討されたが、出航の3週間前に咸臨丸に決まった。咸臨丸はオランダのホップ・スミット造船所で製造され、排水量620トン、全長48.8m、巾8.74mであり、砲を12門積み、百馬力の蒸気機関でスクリューを備えていた。



咸臨丸の図 帆走中は煙突を収縮したり倒したりして、スクリューも海面上に引き上げる。この図は海面下にある状態（船の科学館提供）

### 4) 万次郎の乗船に異議

万次郎を同船させるとアメリカ側の有利に動く懸念があると疑われ、評議で揉めたが、木村撰津守の再三に渡る万次郎の能力の高さを弁じた、最後には幕府も納得した。（出発の2週間前である）

福沢諭吉も出帆の間際に飛び込んで来た、仕方なく木村撰津守の従者にして参加した。

### 5) 太平洋難航

1860年2月10日、ポーハタン号より3日早く咸臨丸はアメリカに向けて浦賀を出航した。その翌日から海が荒れ、日本人乗務員は大荒れの外洋の厳しさを初めて知り、船酔いで早々にアメリカ人の助けを受けねばならなかった。こんな時万次郎は一晩中起きていて、話をしたり歌まで唄って、昔の捕鯨船での生活を思い出して楽しんでいて、この様子を見たブルックは「大変驚いた！」と日記に書いている。一方勝海舟艦長も嵐の為予定が遅れて、気がかりになっていた。そこで万次郎に全権を委任した。つまりこの日から万次郎は咸臨丸の艦長となった訳である。

### 6) サンフランシスコに着く

木村撰津守の「奉使米利堅（ほうしめりけん）紀行」には1860年3月17日にサンフランシスコのレレヨマチという海岸の投錨したとある。咸臨丸はサンフランシスコから40km離れたメーア・アイランド海軍工廠でドック入りした。万次郎はサンフランシスコで掲載された新聞記事を翻訳して木村撰津守らに翻訳して聞かせていた。1860年3月30日のDaily Alta Californiaによると、ポーハタン号にも2、3人の通訳がいたが、咸臨丸の万次郎艦長にかなう者はいないと絶賛していた。

### 7) ホノルル入港

5月23日9時ホノルルに無事入港した、まず勝、小野、中濱、小長井の4人が公務で上陸した。万次郎は公務が終わると、恩人デーモン牧師を訪ねた。10年目の再会でデーモン牧師は大変驚き、喜んだ。「ボーディッチ航海書」の翻訳本と「関の兼房」の脇差しをデーモン牧師に贈っている。この刀は470年前の関の藤原兼房で。現在でもデーモン家に保存されている。

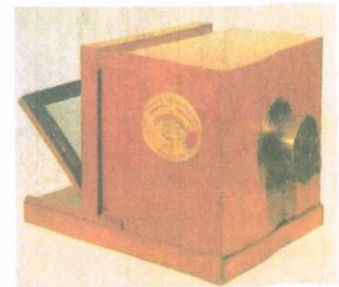
## 8) 木村摂津守とブルック艦長

荒海不慣れとはいえ立派な士官を集めた木村摂津守の蔭の努力が成功に導いた鍵であったと言える。万次郎はブルックと木村摂津守との間、即ちアメリカ人と日本人との潤滑油であった。木村摂津守はブルックと別れる時「好きなだけ金貨を受け取って欲しい」と言った。しかしブルックは「咸臨丸の航海が成功し、初めて日本人をアメリカに紹介できたことだけで自分は十分満足している」と丁重に断ったという。また木村摂津守も立派で、この金貨は公金ではなく予備の為私財を売り払って作った金だったという。2人の人柄が偲ばれた別れの場面であった。

## 9) 咸臨丸で持ち帰ったもの

### ①写真機

万次郎が持ち帰った写真機は「ダゲレオ・タイプ」という1839年仏人ダゲレオが発明した箱型の写真機である。映す前にガラス板にフィルムを作り、現像液の調合まで全部自分でしないとイケなかった。そのやり方を万次郎は咸臨丸がドック入りしている1ヶ月余りの間にアメリカの写真技術者から習得したという。その為には英語は必須で物理や化学の知識が不可欠であった。



ダゲレオ式カメラ  
Daguerre-type camera

### ②ミシン

アメリカのミシンはグローバー社、ウイルソン社、シンガーマシン社の3社が激戦していた。中でも3kg以下の軽量で一般家庭に普及していたウイルソン社のミシンを万次郎が入手してきた。恐らく万次郎の真意は日本にも機械革命を導入しようとしたものである。



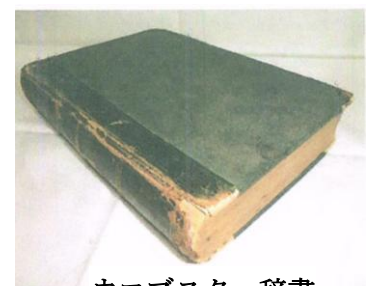
ミシン

### ③アコーディオン

万次郎はアコーディオンも持ち帰った。捕鯨船でみんなで良く歌を唄った、思い出がある

### ④書籍

ポーハットン号で行った遣米使節団は辞書、英文法、数学、物理、地図、航海術の本を各々10数部ずつ、特に航海書、英文法書は70部ずつ購入してきている。これらの本の種類は万次郎が10年前に帰国した時のリストと殆ど同じである。航海書は万次郎がすでに翻訳した「ボーディッチの航海書」である。



ウェブスター辞書



## 7. 国内（後編）

### 1) 小笠原島の開拓

幕府は外国奉行水野筑後守忠徳を団長に、通訳として万次郎他107名が派遣された。島での交渉相手はナサニエル・セボレーであり、万次郎にとってはフランクリン号で寄港した時以来の2回目になる。父島に上陸後、日本国旗を旭山（260m）の山頂に立てた。島民38名を招集して、日本領土であり統治下であることを説明し、既得の田畑は保障、お土産の酒、什器、ローソクなどを与え、親睦をはかった。法令を英訳し、セボレーの誓約書を作成した。母島14名についても同様に行った。

### 2) 小笠原捕鯨

団長の水野筑後守忠徳が幕府に出した親書には、万次郎が先に出した建議書と同様に、「小笠原島近海には鯨が多くアメリカ捕鯨船の取り放題となっていて、日本の国益が奪われている」と、日本も捕鯨を行うように進言している。

### 3) 壹番丸

万次郎は英語の弟子だった越後の豪商平野廉蔵の出資により外国船（フェーナ号）を買い、壹番丸と命名して、捕鯨の装備を付け加え捕鯨に出る準備をした。（幕府と共同経営で捕鯨を行うことにした）

### 4) 保障の要求

出船前に乗務員心得として9件の要求を出している。この半分は船の破損時や乗務員の病傷害に関するもので、現在でいう保険について細かく配慮されている。幕府はこうした万次郎の要請を受け入れ、出船を命じた。捕鯨の念願達成の喜びの裏で、妻鉄の亡くす悲しみの中での船出であった

### 5) 捕鯨船出港

壹番丸の船長は万次郎で、父島の役人松浦権之丞と林和一郎の2人が操船実習として参加した。父島での捕鯨経験のある外国人を6名雇う。彼らの待遇は射手、舵手の業務給で、実際の鯨の捕獲したサイズにも賃金を決めた。現在の固定給プラス歩合給の給与体系を独自に作成した。

### 6) 捕鯨の収穫

約1ヶ月で「真児（マッコ）鯨2頭」であった。これはアメリカ捕鯨並みの成績を収めた。これを換算すると約4千ドルである。

### 7) 鳥島の命名

今回の捕鯨の途中で昔漂流した鳥島に上陸し、「大日本属鳥島」という標を建てている。

## 8) ホーツン事件（強盗未遂事件）

この事件は日本人が初めて外国人を逮捕した事件である。ウィリアム・スミスという水夫と共犯の実弾入りピストルを持つ、ジョージ・ホーツンの2名が船の備品を盗んで行こうとする所を万次郎が捕え、手錠を掛けた。万次郎が通訳をして関係者から口実書を取り、父島在住の外国人にも証明書を書かせた、これらの手順をきちっと踏んで証拠を取り島民の同意を得るため13名の署名をも撮った。これは万次郎が英語が話せて外国の荒くれ男の扱いに慣れていて、（強い正義感をもっていたこと）この後、公使からの脅かしの手紙や万次郎と米公使との直接対決などがあり、外交問題に発展した。

## 9) 鹿児島赴任、長崎で船を買う

薩摩藩は幕府に対して、中濱万次郎を招へいして3年間蒸気船の運航術などの教授を願い出た。承諾を得た薩摩藩は、翌年陸海軍の総合大学＝開成所を設立した。そこで万次郎は教授として航海、測量、造船、英語などを担当した。また遠洋航海の実習も行った。購入した船は英鉄製汽船4隻、米木造帆船1隻の計5隻で31万ドルであった。

### 10) 老母と過ごす

薩摩藩に勤務中許可を貰い、正月から3月まで中の浜で母74歳とゆっくり過ごすことが出来、孝養することが出来た。

### 11) 高知開成館勤務

高知に開成館（学校）が出来、藩主の命を受けて教授になる為、中の浜を出発した。開成館では万次郎は英語、航海術、測量術、捕鯨術などを教えた。



現在の開成館跡

### 12) 長崎グラバー邸

万次郎は土佐藩参政後藤象二郎ら33名と共に、船の購入の為長崎に向かった。しかし、長崎では適当な汽船はないことが判り、上海に向かう。

### 13) 上海（2回行っている）

長崎から上海に行き、蒸気船、帆船各々2隻を購入し契約も成立した。万次郎は長さ50cmのオルゴールやコウモリ傘を購入している。

### 14) 竜馬の船中八策

万次郎が交渉して上海で購入した「夕顔」（鉄製汽船、659トン）に、坂本竜馬、海援隊の長岡謙吉、後藤象二郎らが乗船し、長崎から兵庫に向かった。この船の中で「船中八策」が作られた。



### 1 5) 開成学校（東京大学）教授

万次郎は藩主山内容堂の知遇を受け、藩士に抜擢され、百石を賜り、馬回り役で召し抱えられた。明治新政府は各藩の優秀な者を江戸に召集して、徴士を命じた。万次郎も徴士を命じられ、開成学校の教授に任命された（万次郎42歳の時）

### 1 6) 欧州出張

普仏戦争の視察の為、薩藩大山弥助（＝大山元帥）、長藩品川弥二郎（のち内務大臣）、肥藩池田弥一、土藩中濱万次郎、林有造の5名が朝命を受けた。1870年9月23日アメリカの外輪蒸気船3881tに乗船して、サンフランシスコに向かった。万次郎にとって、サンフランシスコは3回目である。サンフランシスコからニューヨークに到着したのが10月28日だった。（万次郎43歳の時）

### 1 7) フェアヘーブン再訪

ニューヨークから英国行きの船が出るまで5日間あったので、北に220km離れたフェアヘーブンに行き、21年振りに恩人ホイトフィールド船長（65歳）を訪問して1泊した後、ニューヨークに戻っている。欧州出張は万次郎にとって、開成学校（東大）の教授職より遥かに勝るものであった。

### 1 8) 英国からの帰国

1870年11月2日に英国船ミネソタ号でニューヨークを出発して、大西洋を横断してリバプールに着き、その後汽車でロンドンに着いた。この時の普仏戦争の状況は仏国に利あらず、パリは既に独軍に占領されていた。視察中万次郎は足部に潰瘍を生じ、痛みもあるのでロンドンで診察を受けると、すぐ治るものでもなく、これからの訪問国は寒さが厳しく症状は悪化すると医師に言われた。万次郎は一行に迷惑をかけることを恐れ、1人で帰国することにした。帰路は前年開通したスエズ運河を通り、東回りで帰国した。

## 8. 老後

### 1) 晩年の生活

足部の潰瘍も数ヶ月後には治癒した。この間、土佐藩邸に出勤して英語や捕鯨などを話していた。しかし、明治4年、44歳で突然脳溢血を起こし、一時は言語障害や下肢の麻痺があり病床についていたが、これも数ヶ月で歩行できるようになり、自宅や鎌倉の別邸で療養した。

### 2) 最後の帰郷

万次郎は長男東一郎（東大医学部の学生）を連れて、明治6年と8年には中の浜に帰省して老婆に会い孝行している。10日間の滞在中、釣りをしたりしていた。母は4年後87歳で他界した。

### 3) 老後の住居

老後の万次郎の住居は、深川砂村の土佐藩下屋敷にいた。この屋敷は山内容堂公から賜ったもので7千坪の敷地で広大である。ここで13年間住み、ついで京橋弓町に移り、余生を送った。

### 4) 家庭生活

万次郎は家庭でアメリカで覚えたパンを焼いたという、また家族で芝明神前にある料理屋「車屋」に族で食事をするなど家庭サービスもしていた。(アメリカ的なものを感じる)

### 5) 三人の大切な人の死

万次郎の母「志を」を87歳で亡くし、ハワイのデーモン牧師を71歳で亡くし、恩人ホイットフィールド船長をフェアヘーブンで82歳で亡くした。

### 6) 歌舞伎になった万次郎

芝の新富座で市川団十郎が中心に、開国テーマで演じられている。その後市川左団次が新富座で「土佐半紙初荷の艦（おおぶね）」を演じた。

### 7) 隣人愛

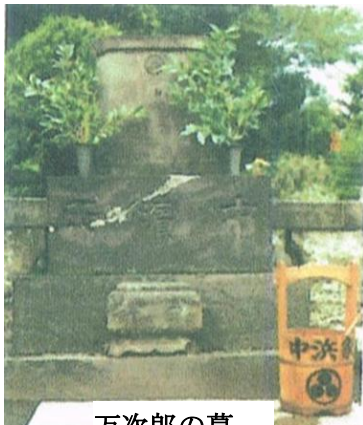
ホイットフィールド船長は身を持って、隣人愛を不言実行し万次郎に示した。万次郎はホイットフィールド船長に対する大きな恩を何で返したか？直接船長個人ではなく、他人即ち隣人に対して船長から受けたことと同じことをすることで、誰でも上下の身分の隔たりない人間同士の付き合いをし、いつも困っている弱者を助け隣人愛の実践をごく自然に行った。

### 8) 臨終

万次郎は京橋弓町8番地にて、満71歳で静かに昇天した。

### 9) 万次郎の墓

現在、東京都豊島区雑司ヶ谷（ぞうしがや）のあり、高さ1.3mの仏式の墓がある。万次郎は息子達への教訓として、「決して諦めてはいけない」と常々言っていた。



万次郎の墓



万次郎 正五位受賞記念碑

万次郎の息子達への教訓

「決して諦めてはいけない」

Never give up !



John Mung

追記一 1

万次郎については、日本よりもアメリカで有名である。170 年前にホイットフィールド船長との出会いが日米友好の原点になっており、ホイットフィールド家と中濱家は6代に渡り友好を継承している。ジョン万祭りはジョン万次郎とホイットフィールド船長の友情を記念し、フェアヘーブン（米）と土佐清水市で毎年交互に開催されている。「第6回土佐清水ジョン万祭」は2016年



土佐清水ジョン万祭り

10月29日（土）に開催し、10月30日（日）には「ジョン万サミット」も合わせて開催する。そして「咸臨丸子孫の会」ではブルック大尉の3代目、木村撰津守4代目、万次郎4代目が新たに建造された咸臨丸船上で会談している。



新たに建造された咸臨丸船上にて  
On the replica of the Kanrin-maru  
(左から from the left)  
ブルック大尉3代目 ジョージ・ブルック  
Mr. George M Brooke Jr.  
木村撰津守4代目 木村昌之氏  
Mr. Masayuki Kimura  
万次郎4代目 中濱博  
Hiroshi Nakahama

追記一 2

本年7月18日に105歳で亡くなられた聖路加国際病院名誉院長の日野原重明氏が代表発起人となり、フェアヘーブンの船長の家を修復して「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」を設立している。また2012年にはフェアヘーブンの街とニューヘッドフォードの町に桜の若木を友好記念として植樹している。現在では背丈を越え見事な花を咲かせているそうです。

(2017. 5. 13・20の朝日新聞に記事掲載)



友好記念館



☆参考文献（順不同）

- ・「中濱万次郎伝」 中濱東一郎（2代目） 富山房
- ・「中濱万次郎の生涯」 中濱 明（3代目） 富山房
- ・「中濱万次郎」アメリカを初めて伝えた日本人」 中濱 博（4代目） 富山房
- ・「ファースト・ジャパニーズ・ジョン万次郎」 中濱武彦（4代目） 講談社
- ・「さざなみ軍記・ジョン万次郎漂流記」 井伏鱒二 新潮文庫 第6回直木賞受賞
- ・「炎は流れる」 大宅壮一 文芸春秋
- ・「アメリカ素描」 司馬遼太郎 読売新聞社

☆現地調査

- ・ジョン万次郎資料館（高知県土佐清水市養老303）
- ・（一社）土佐清水市観光協会（土佐清水市養老303）
- ・土佐清水市中浜区長場（西村区長）

☆万次郎関連の歌

- ・「ジョン万次郎賛歌」 歌手；BrothersFour、作詞作曲；R.flick、訳詞；山川尚義
- ・「あゝ万次郎」 歌手；村田英雄、作詞作曲；賀川幸星
- ・「ジョン万次郎の歌～忘れはしない肝心（ちむぐくる）～」  
歌手；三田りょう、作詞；日高博、作曲；かでかる さとし（沖縄フォーク歌手）
- ・「足摺岬」 歌手；鳥羽一郎、作詞；星野哲郎、作曲；岡千秋

☆ジョン万次郎資料館（土佐清水市養老）

→名誉館長；ビビる大木